

【別紙】

## 田面水の適正管理について

### 1 入水前

#### (1) ほ場の均平

浅水代かきなど適正な水管理ができるよう、ほ場の均平は丁寧に行う。

#### (2) 畦畔からの漏水防止

畦波シートの設置や畦塗りを徹底することにより、畦畔からの漏水防止に努める。また、止水板はあぜの高さ以上とすることが望ましい。

### 2 代かき時の水管理

排水口を完全に閉めて湛水するとともに、できるだけ入水量を少なくするように努める。

また、代かき後から田植えまでの水管理は、田面水の蒸発及び浸透による自然落水を基本とするが、やむを得ず落水しなければならない場合は、田面水の濁りが消えてから行う。

### 3 代かき方法の工夫

#### (1) 浅水代かき

浅水代かき（湛水量は代かき時に田面の6～7割の土が見える程度）により、田面水の排水量を抑制する。

#### (2) 水田ハロー利用による代かき回数の低減

水持ちの良好なほ場では、水田ハローの利用により、荒代、植代を1工程で行うことにより、代かき回数の低減に努める。

### 4 肥料の適正施用

土壌診断や栽培暦等に基づいた適正施肥を行う。

基肥を施用するときは、肥料分の流亡が少ない全層施肥法で土壌混和するとともに、施用後は肥料分が河川等に流出しないよう数日間は止水する。

### 5 被覆肥料の被膜殻（プラスチック）の流出防止

肥料成分が溶出した後の被膜殻の河川・海洋等への流出を防ぐため、上述の田面水管理方法に加え、別添参考資料に基づき、適切な対策を行う。

また、必要に応じて施肥量の削減につながる側条施肥技術の導入等について検討する。

### 6 農薬の適正施用

除草剤や殺菌殺虫剤等の本田施用後は、成分が河川等に流出しないよう、1週間程度は止水する。